

一般社団法人
SDGs大学

認定資格講座
カタリスト



一般社団法人 S D G s 大学認定カタリスト資格講座

<目次>

はじめに	・・・・・・・・	3P
S D G s 大学について	・・・・・・・・	4P
各種資格講座について	・・・・・・・・	5P
S D G s カタリストになろう	・・・・・・・・	6P
S D G s って何ですか？	・・・・・・・・	7P
S D G s にいたる歴史背景	・・・・・・・・	8P
MDGsからSDGsへ	・・・・・・・・	9P
5つのP	・・・・・・・・	10P
「社会」「経済」「環境」	・・・・・・・・	11P
サステイナブルな社会	・・・・・・・・	12P
3つの革新	・・・・・・・・	13P
ワークショップ	・・・・・・・・	14P
Announcement	・・・・・・・・	15P
用語集	・・・・・・・・	16P
大学のデザインについて	・・・・・・・・	17P

はじめに ～カタリスト資格受講にあたって～

SDGs（エスディー・ジーズ：Sustainable Development Goals 持続可能な開発目標）とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標（MDGs）の後継として、193のすべての国連加盟国によって、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際目標です。その目標は持続可能な世界を実現するための17のゴール・169のターゲットから構成されています。その前文の一部を紹介すると「このアジェンダは、人間、地球及び繁栄のための行動計画である。これはまた、より大きな自由における普遍的な平和の強化を追求するものでもある。我々は、極端な貧困を含む、あらゆる形態と側面の貧困を撲滅することが最大の地球規模の課題であり、持続可能な開発のための不可欠な必要条件であると認識する。すべての国及びすべてのステークホルダーは、協同的なパートナーシップの下、この計画を実行する。我々は、人類を貧困の恐怖及び欠乏の専制から解放し、地球を癒やし安全にすることを決意している。我々は、世界を持続的かつ強靱（レジリエント）な道筋に移行させるために緊急に必要な、大胆かつ変革的な手段をとることを決意している。我々はこの共同の旅路に乗り出すにあたり、誰一人取り残さないことを誓う。」とあり、さらに、「ミレニアム開発目標（MDGs）を基にして、ミレニアム開発目標が達成できなかったものを全うすることを目指すものである。これらは、すべての人々の人権を実現し、ジェンダー平等とすべての女性と女兒の能力強化を達成することを目指す。これらの目標及びターゲットは、統合され不可分のものであり、持続可能な開発の三側面、すなわち経済、社会及び環境の三側面を調和させるものである。」と前文で述べられています。

私たち、一般社団法人SDGs大学では一人でも多くの方にSDGsを理解して実践・達成していただくために、だれでも気軽に受講していただくことのできるSDGs大学認定カタリスト資格講座を設けました。この資格はSDGsの基本を理解していただき、SDGs的思考を養い、日頃からSDGsを意識しながら日常生活や業務の場面で実践者として行動できる人財の育成を目的としています。

SDGs 17の目標は、世界共通の言語や行動として。すべての人が理解し、行動を起こさなければ到底達成できるものではありません。ましてや一人で、一企業で、達成できるものでもありません。この講座を機に、「ジブンゴト」として捉え、地球をまもるため、当大学とともに目標の達成を目指す仲間となっていただければ幸いです。

<SDGs大学とは>

2015年9月の国連サミットで採択されたSDGsを他人事ではなく、『自分ごと』としてとらえ、実践していけるようにSDGsの研究・周知・教育を行っています。

<SDGs大学の特徴>

私たちは生まれた時より幸福を求めて日々生きています。しかし、現状は個人、世界を取り巻く現状の中、日々不安を抱えそれぞれ生活を営んでいます。私たちは今よりも幸福で平和な世界を継続して作りたいたいと思っており、そのような中で、幸福で平和な世界を実現するため、SDGsを推進することが重要と考えています。SDGsは17のゴール、169のターゲットを定め「誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂力のある社会の実現」を目標としていますが、SDGsを知っている方はまだ少数です。この理念をより多くの人に知っていただき、協力の輪を形成するために、セミナー、勉強会の開催や啓蒙活動を担う人材である講師の育成、派遣、交流会やイベントの開催を通じての啓蒙活動を行います。

<建学の理念>

物心両面の幸せを追求し、真の『自分ごと』を探求できる学びの『場』を提供します。

<校訓>

学び・実践・達成・及人

<建学の運び>

国連で2030年目標達成に向け2015年に採択されたSDGs。5年経過した今や、情報が取得され、それに向けた活動が色々な方面で開始し始めています。企業にとってはCSRの観点でSDGsを掲げているところも増えてきていますが、現況を洞察するに、流行ごとの範疇で進捗している感は否めません。真の達成を追求するならば、個人個人の『純粹自他共尊主義』に基づいた真の『ジブンゴト』と捉えての学び、実践、そして達成、それにより自尊ができ、他の人たちに普及できるスタイルが必要不可欠であると考えます。同時にリカレント教育のみならず、生涯学習の観点、産学連携の観点で考える必要があります。仕事に活かすだけでなく、より豊かな人生を送ることは、人生100年時代が叫ばれる現代にはとても大切なことです。

よって当校では、3段階のタイトルライセンスと2種類のプロフェッショナルライセンスを準備し、最初のフェーズである『学び』から『きっかけ』を提供するものであります。

一般社団法人SDGs 大学認定資格講座

カタリスト

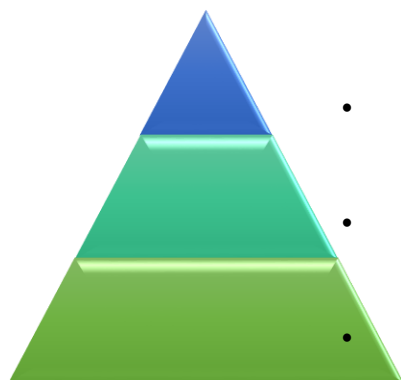
カタリストとは、英語で触媒という意味があります。また語る人という意味合いも含め、日ごろからSDGsを意識しながら、日常生活や業務の場面で、実践者として行動できる人財を言います。カタリストの行動基準としては、SDGsをジブンゴトとして捉え、学び、伝え、常に目標達成を意識し、誰一人取り残さない社会のために、トライ&エラーを恐れず目標の達成に向けて実践をしていきます。

アドバイザー

SDGsをジブンゴトとして捉え、学び、実践者としてありたい未来について伝えることができる指導者であり、カタリストの育成を担う人財を言います。

コンダクター

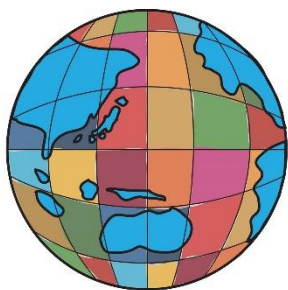
SDGsを深く理解し、カタリスト、アドバイザーの育成を担い、多様な実践者のリーダーとして目標達成を目指すことができ、当大学の運営に携わることのできる人財を言います。



- コンダクター
- アドバイザー
- カタリスト

SDGsカタリストになろう！

カタリスト講座とはSDGsとは何か？についてSDGsを初めて学ぶ方向けの講座です。当大学において、SDGsとは17の目標と169のターゲットを知るだけでなく、一人ひとりが自分の生活の中で何ができるかを考え実践できるようになることが大切だと考えています。カタリスト講座で、なぜSDGsという概念ができ、国連がアジェンダをつくり、世界中の国々が実行していこうとしているのか。2030年までに17の目標と169のターゲットを達成するためにできることは何かを、一人ひとりがジブンゴトとしてとらえ学んでいただき、地球をまもる仲間として実践者となっていきたいと思えます。



 **SDGs UNIVERSITY**

SDGsは世界の共通言語です。
一人でも多くの人たちに、SDGsを広め、
目標の達成に向けて、みんなで行動をするために、
カタリストとして、正しく学び、伝え、実践して
欲しいと願います。本講座が終えた後、カタリス
トとしての最初の行動として、想いや感じたこと、
考えをお聞かせください。



SDGsって、何ですか？

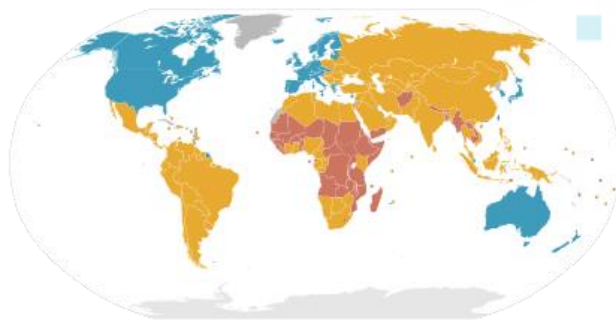
SDGsは「Sustainable Development Goals（サステイナブル・ディベロップメント・ゴールズ）」という言葉の頭文字をとったもの。サステイナブル（Sustainable）は「持続可能な」という単語で、ここでは「将来にわたって、暮らし続けていけるように世界をよくしていくための目標」という意味。



※この図解は中日新聞社の許諾を得て転載しています

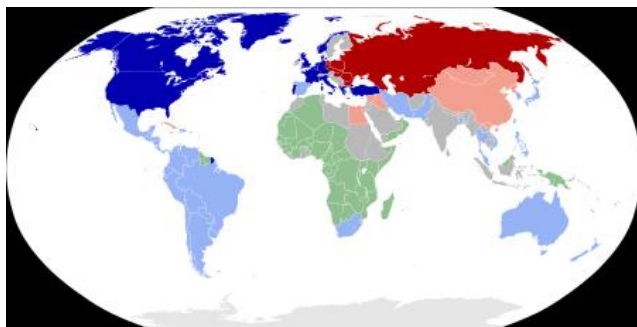
SDGs にいたる歴史的背景

南北問題



青紺色 = 先進国
黄土色 = 開発途上国
朱色 = 後発開発途上国
灰色 = 利用できないデータ
IMFとUNによる分類

東西問題



1959年の世界の様子
ワインレッド = ワルシャワ条約 (WT) 加盟国
朱色 = ソ連の他の同盟国 (東側諸国)
青紺色 = 北大西洋条約 (NATO) 加盟国
空色 = アメリカの他の同盟国 (西側諸国)
緑 = 植民地
灰色 = 非同盟諸国)

SDGs は、今の世界がかかえている問題の解決のしかたを「17の目標」にまとめたもので、次の3つのことを基本にしています。

◇だれひとり取り残さない (No one will be left behind)

「だれひとり取り残さない」は、その言葉の意味のとおり、SDGs のすべての目標の根底にある、重要で力強い決意をあらわしたものです。

SDGs は2030 年までに達成する目標をさだめたものですが、それ以前にも、

「ミレニアム開発目標 (Millennium Development Goals : MDGs)」というものがありました。MDGs は、2015 年までに達成する8つの目標を定めたもので、主に開発途上国の貧困や飢餓、健康などの問題に取りくみました。

MDGs は多くの成果をあげましたが、アフリカの一部の地域で達成できなかったり、また、先進国においても貧困や格差の問題が残されていることが明らかになってきました。

一部の人々を置きざりにしたままの、ゆがみのある社会は、新たな問題を生む可能性があります。だれかの犠牲のもとに達成するゴールは、SDGs のめざすものではありません。SDGs は、もっとも弱い立場にいる人々も、取り残されることのない社会をめざします。



MDGs



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



ゴール1：貧困と飢えをなくそう

ゴール2：みんなが小学校に通えるようにしよう

ゴール3：ジェンダー平等と女性のエンパワーメントを推進しよう

ゴール4：子供の死亡率を減らそう

ゴール5：妊娠・出産する女性の健康状態を改善させよう

ゴール6：HIV/エイズ、マラリア、その他の病気が広がることを予防しよう

ゴール7：人々の生活の向上と地球環境の保全を両立させよう

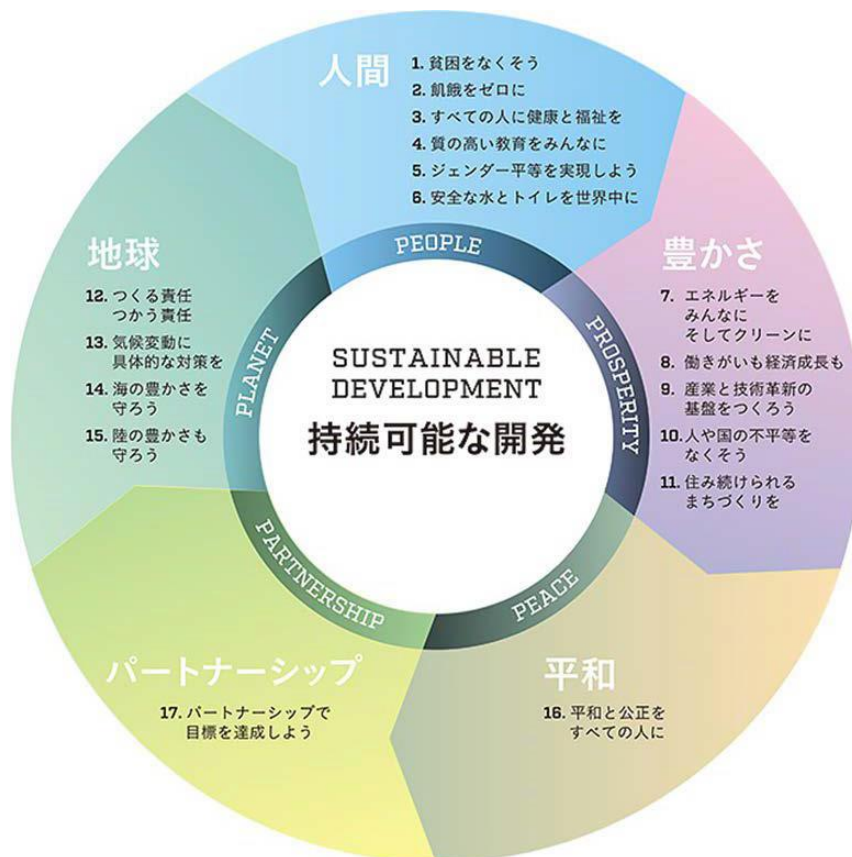
ゴール8：みんなで協力して世界から貧困をなくそう

◇ 5つのP (People, Planet, Prosperity, Peace, Partnership)

SDGsの17の目標は、「人間」「地球」「豊かさ」「平和」「パートナーシップ」の、いずれか1つ以上に関わっています。これら5つの要素は、英語の頭文字をとって「5つのP」といわれています。

17の目標が、それぞれどんなことを考えたものなのか、5つのPで整理することで、より理解を深めることができます。

参考、及び引用資料: 三輪昭子著『身近でできるSDGsエシカル消費』さ・え・ら書房刊、2019年



◇ 「社会」 「経済」 「環境」 の、それぞれの視点から

SDGsの17の目標は、互いにつながりあっています。ある1つの目標の達成を考えると、別の目標のことも考えなくてはならなくなるというように、それぞれが関係しあっているのです。ですから、SDGsの目標にかかげられた問題を考えるときは、その問題のみの解決をめざすのではなく、いくつかの視点から、広く問題をとらえることが必要になります。

SDGsは、その視点として「社会」「経済」「環境」の3つをあげています。



たとえば、目標2「飢餓をゼロに」は、すべての人びとに栄養のある食料が十分に行きわたるようになるという「社会（人）」に関する目標です。そのために、目標2のターゲットでは、最初に農産物の生産量を増やすことをいっています。それだけでなく、生態系を守るという「環境」のことや、農家の人の収入を増やすにはどうしたらいいかという、「経済」に関する取り組みについても定めています。

重要なキーワードは、「サステイナブル（持続可能性）」
 どんなふうに、理解しますか？下の図で整理してみましょう

1972年に「人類の危機」レポートで警告



ローマ・クラブが発表した『成長の限界—ローマ・クラブ「人類の危機」レポート』（大来佐武郎訳、ダイヤモンド社 1972年刊）は、世界に大きな衝撃を与えました。

人口と工業投資がこのまま右肩上がりに幾何級数的成長を続けると、地球の天然資源は枯渇し、環境汚染は自然が許容しうる範囲を超えて進行することになり、100年以内に成長は限界点に達するという衝撃的な内容が記されていた。

1980年代に入ると、経済成長と環境保護の二者択一の考え方ではなく、1980年頃ドイツで生まれた、経済成長と環境保護は両立できるとする「エコロジー的近代化論（Ecological Modernization）」が注目されるようになってきた。

環境問題の解決
 に向けたシナリオ。



私たちの暮らしは、地球1個でつながっている。だから世界全体で考えていくことが必要だ！！



SDGsを達成するための3つの「革新」

1つ目は、技術の革新（イノベーション）です。科学技術には、それまでできなかつたことをできるようにするなどの、社会を変える力があります。近年、社会を大きく変えた技術としては、インターネットなどの情報通信技術があげられます。文字や画像などの情報を広く発信して、すぐに受けとることができるインターネットの技術は、多くの人びとの生活の向上につながりました。また、スマートフォンなどの情報端末によって、どこにいても情報にアクセスすることができるようになりました。

もしかしたら、2030年には、AI（人工知能）やロボットが当たり前に行事している時代になっているかもしれません。

2つ目は、社会のしくみの革新です。人びとの生活や世の中の流れ、もとめられていることにあわせて、社会のしくみを変えていくのです。国などの政策や法律、制度によって変えることもできますし、市民や企業が自分たちで変えていくこともできるでしょう。

ゴミの3R（削減、再生利用、再利用）を進めて循環型社会をつくる、社会における女性の活躍を促進する、会社勤務の形などを見直して働き方を変える、弱い立場の人のことを考えたまちづくりを進めるなどのことがあげられます。

3つ目は、人びとの生活の革新です。生活を変えるとといっても、たやすく変えられることと、なかなか変えるのがむずかしいことがあります。生活の革新とは、自分の意識、つまり自分自身の考え方を新しくすることだとも言えます。長年続けてきたことでも、「こうした方がいい」と納得して、その考えに満足すれば、変えることができます。

エシカル消費は、まさしく、この生活の革新です。


SDGsのめざす「持続可能な世界」の実現に向けて、途上国などはくらしを豊かにし、経済発展を進めることが必要です。そして、先進国は1人当たりの資源の消費量を減らし、途上国といっしょになって、地球全体の資源を守る必要があります。

消費者の力はSDGsの達成に欠かせないのです。

ワークショップ



NOTE



SDGs を共通言語として

あなたは

何を語りますか？

何を実践しますか？

Announcement



SDGs用語集

CSR(企業の社会的責任) Corporate Social Responsibility

企業が利潤を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任をもち、あらゆるステークホルダー（利害関係者：消費者、投資家等、及び社会全体）からの要求に対して、適切な意思決定をする責任を指す。

CSV（共有価値の創造） creating shared value

企業の競争戦略を専門とするアメリカの経済学者マイケル・ポーターが提唱。企業による経済利益活動と社会的価値の創出（＝社会課題の解決）を両立させること。およびそのための経営戦略のフレームワークを指す。

ESG

環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）の頭文字を取ったものです。今日、企業の長期的な成長のためには、ESGが示す3つの観点が必要だという考え方。⇒ESG投資

LGBT

女性同性愛者（Lesbian）、男性同性愛者（Gay）、男女問わず両性愛者（Bisexual）、トランスジェンダー（Transgender）の各単語の頭文字を組み合わせた表現である。⇒LGBTQ、LGBTQ+

SDGsウォッシュ

国連が定める17の持続可能な開発目標（SDGs）に取り組んでいるように見えて、実態が伴っていないビジネスのことを揶揄する言葉。実際はそうでないにも関わらず、広告などで環境に良いように思いこませる「グリーンウォッシュ」が元になっている。

SDGsインデックス&ダッシュボード

独最大財団のベルテルスマン財団と持続可能な開発ソリューション・ネットワーク（SDSN）による各国の国連持続可能な開発目標（SDGs）達成状況を分析したレポート。2020年日本は17位

エシカル

倫理的」「道徳上」という意味の形容詞である。つまり、「法律などの縛りがなくても、みんなが正しい、公平だ、と思っていること」を示す。近年は、英語圏を中心に倫理的活動を「エシカル（ethical）〇〇〇〇」と表現し、エシカル「倫理的＝環境保全や社会貢献」という意味合いが強くなっている。⇒エシカル消費

バックカスティング

未来を予測する際、目標となるような状態を想定し、そこを起点に現在を振り返って今何をすべきかを考える方法。「ありたい姿・あるべき姿を規定し、その実現のために、いまなすべきことを考える」ということ

パリ協定

1997年に採択された京都議定書以来18年ぶりとなる気候変動に関する国際的枠組みであり、気候変動枠組条約に加盟する全196カ国全てが参加する枠組

フェアトレード

フェアトレードとは直訳すると「公平・公正な貿易」。つまり、開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い開発途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す「貿易のしくみ」をいいます。⇒フェアトレードタウン



本日は、カタリスト資格講座を受講いただきありがとうございました。

当大学のデザイン、渡り鳥の話させていただきます。

渡り鳥は毎年同じ時期に同じ場所を目指し、一年で地球の円周を2周以上飛ぶ種類もあります。渡り鳥のこの行動はより生活しやすい場所を求めて行われるといわれています。この時、編隊の先頭は向かう先を間違えずに飛ぶ必要があり、かつ空力的に非常に負担がかかる重要で大変な役割です。渡り鳥はこの役目をだれか一羽に託すのではなく、編隊の皆で順番に交代していきながら目的地に向かって飛んでいきます。

私たちが実践しているSDGsの達成は簡単なものではありません。誰か一人が頑張ればいいものではありません。有名なハチドリのひとつの話にあるように、ある日森が燃え、動物たちはみな逃げていきましたが、一羽のハチドリがくちばしで水をひとしずくずつ運んで火の上に落とします。「そんなことをして、いったい何になるんだ」ほかの動物たちは馬鹿にして笑いますが、ハチドリは答えます。

「私は私にできることをしているだけ」と、

我々もハチドリと同様に微力です。皆がそれぞれ自分事としてとらえ実践していき様々な方とパートナーシップを組み実践していく必要があります。全員が同じ目的を持ち、目標達成のために誰一人手を抜かず行動する渡り鳥。私たちの活動もこの渡り鳥のように様々な目標をジブンゴトとしてとらえ様々な人と協力し実践・実現を達成するため、渡り鳥を当大学のイメージとしています。

注) 本テキストの無断転載・無断使用を固く禁じます。

<一般社団法人SDGs大学>

本部

〒461-0049 愛知県名古屋市東区古出来1丁目2-16

東京キャンパス

〒144-0052 東京都大田区蒲田4-29-1 銭坪ATビル2階

